[最期のお別れ] 亡くなる当日、朝より容態急変。すぐに妻の弟を呼び、病院には間に合いましたが、最後の１日は会話は出来ませんでした。家族２人で見送ることはできました。

[対応、お気持ち] 国立病院入院時は１ヶ月間４人部屋。余命１ヶ月であるのに、看護士も少なく、手術予後も非常に悪いのに、とても本人は苦しいと言っていた。余命宣告はいきなり言われてびっくりした。コロナで他の病院への転院もできないと言われ、ショックが大きかった。奇跡的に転院できた緩和病棟では、医師、看護士、みなさんがとてもやさしく、転院後の１週間は最期の二人の生活が過ごせたことはありがたかったが、今思うと国立病院からは早く出ていって欲しいと言われた。しかし病状悪く、在宅は選べなかった。余命短い人への配慮があって欲しかった。

（２７）2021 年２月、母、90 歳、在宅（女性、60 代）

[経過] 母は７年前にパーキンソン病を発症。徐々に悪化し、「要介護５」で歩行も食事も全て介助が必要となった。90 歳の誕生日を迎えた２ヶ月後の朝、39.4 度の発熱で救急車でかかりつけの病院に搬送。コロナ検査（―）だったが、「腎盂腎炎」の病名で緊急入院。その後、敗血症を起こし、一命はとりとめたが、意思疎通もできなくなった。点滴・経鼻栄養で治療するも、入院前の状態には戻れないので、胃ろうなどの延命治療や他施設への転院の選択を相談された。しかし、私を含め妹と弟３人は、“延命治療はせず、平穏な看取りを”と決めていた。２ヶ月間の入院後退院させ、在宅での持続皮下点滴に移行。母は苦痛もなく、穏やかな最後の「18 日間」を私たちと共有し、静かに旅立った。

[面会] コロナ禍の下、２ヶ月間の入院期間中は原則面会禁止だった。しかし、キーパーソンの私のみ３回、短時間面会できた。（医師との面談、看護師や理学療法士からの在宅移行のための直接指導時）。私の呼びかけにも無反応な状態に驚き、悲しみ、毎日面会して声をかけたい、身体を擦ってあげたいと強く思った。こんなコロナの時期に腎盂腎炎にさせてしまった自分を責めた。

[最期のお別れ] 退院してから在宅での 18 日間、子ども・孫・身近な親戚全員が見舞うことができた。妹と弟は駅近のホテルに泊まり込み、私の自宅に通い、母の身体を擦ったり、話しかけたり（本人の反応はほとんどなし）、好きだった童謡・民謡のＣＤをかけ過ごした。静かに息を引き取ったのは、私が母の顔をじっと見つめていた時だった。泣きました。妹と弟はちょうど一旦、自宅に戻っていたので、本当に残念がった。

[対応、お気持ち] 病院からは「コロナ禍で面会させてあげられず申し訳ない」と何回も頭を下げられた。私たち子どもが在宅での持続皮下点滴を選択したので、医師は退院の１週間前から鼻腔栄養量を徐々に減らし、慎重に準備してくれた。主治医からのていねいな病状説明、延命治療を受けないことの意志の再確認の電話も数回あった。また看護師は、忙しい業務中、母が大部屋に移ってからも、母の好きだった童謡・民謡のＣＤをベッドの耳元で聞かせてくれて嬉しかった。私たちは母と過ごせる時間は短いと分かっていた。訪問看護師、かかりつけの往診医と看護師、訪問入浴、訪問理美容、ケアマネージャー、福祉用具事業所等、たくさんの方の援助をいただいたおかげで、最後の 18 日間を不安に陥ることなく、母と穏やかに過ごせたことに感謝の気持ちで一杯である。

（２８）2021 年３月、夫、56 歳、一般病棟（女性、50 代）

[経過] 2020 年１月突然白血病を発症し、抗ガン剤を３クールしてから、難治性の高い白血病だったため、６月にさいたい血移植を行う。ドナーとの相性が悪かったためか、移植後の合併症と感染症に苦しめられ、2021 年３月 １年２ヶ月入院治療後、多臓器不全で亡くなる。

[面会] 2020 年３月中旬以降は面会禁止で、着替えや食料などは看護師さんを通して、週２回程患者に渡してもらう。最後の１ヶ月は ICU での治療で、治る見込みがないということで、お情けで数分の面会は数回許されましたが、その時はすでに会話ができない状態でした。

[最期のお別れ] 亡くなる前日から家族で交代でベッドサイドでのつきそいを許されたので、手を握ってあげることはできました。でも、その時は会話もままならず、お別れしたという実感はありませんでした。夫がどんな気持ちで最期を迎えたのかと考えると、とても悲しくなります。

[対応、お気持ち] 状態が悪くなると面会は許されるという感じでしたが、少しでも体調がよく、家族との時間がおだやかにできる時に面会させてほしかった。苦しむ姿を見せられても、本人も家族も辛くなるだけです。主人も最後はかっこ悪い姿を見せたくないと、面会を拒否されたこともありました。１年２ヶ月にわたる長い入院生活でしたが、お世話をしてくれた看護師さんに最後に会うこともできなく、むなしかった。２人の主治医のうち１人はあいさつもなかった。

（２９）2021 年３月、夫、70 歳、緩和病棟（女性、70 代）

[経過] 発病より２年８ヶ月でした。すい臓ガン～肺へ転移、抗ガン剤２種類後治療法なし、入院は年２回ずつ。2020 年 12 月胸水をぬく手術後在宅で３ヶ月。最期の入院までホームクリニックと看護ヘルパーにお願いする。食欲がなくなっていって自力での生活がしんどくなり、入院し８日間でした。

[面会] はじめは一般病棟へ。緩和病棟への手続きをすぐに取り、緩和病棟へ。一般病棟では面会はできなかった。緩和病棟は移る少し前から面会ができるようになり、１日１人 30 分。危篤状態になったら２人まで可能となりました。

[最期のお別れ] 急変した様子で呼び出しがあり、間に合いました。体をさすり話かけると、肩を動かして返事をし、眼を見開いてしっかり見つめたあと、眼を閉じました。その日は長女が面会の順番で先に行っていたのですが、呼び出しで次女と私が交替しました。

[対応、お気持ち] 最後の一週間前までは在宅で過ごせていて、本人の意志でもあったのですけれど、入院後の時間が短く、こちらが急いでもらって緩和病棟に行けました。時間があっと言う間で、面会も 30 分しかなく、よくわかりません。長女が東京から帰ってきていたのですが、面会が出来て良かったです。

（３０）2021 年３月（母）、父・母、80、90 歳、緩和病棟（女性、50 代）

[経過] ２月下旬に体の浮腫、おう吐、体重増加にて救急外来より入院（悪性リンパ腫の再発による。）手のほどこし様がなく緩和ケアへ。その後強いガン痛の為医療用

【活動経過】

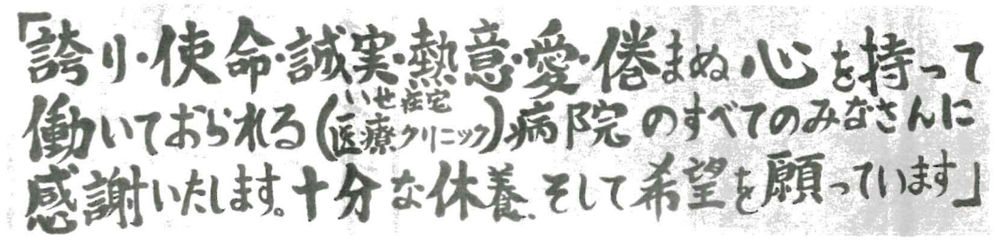
☆2020年4月17日（土）　冊子109号発送および世話役会（総会準備）
（高田馬場駅近くの貸し会議室　10人）

☆4月24日（土）　国立国会図書館収集部受入係より、冊子109号納本のお礼状届く

☆5月16日（日）5月のつどいの中止を決定し、はがき（文面は下記）で会員に通知

> 2021年5月22日（土）の第109回青空の会のつどい中止のお知らせ
>
> ○新型コロナ感染症が急速に全国的に拡大し、緊急事態宣言が東京都（5月12日から5月末まで延期）などに北海道・岡山・広島県が追加され（14日）、合計9都府県になりました。まん延防止措置適用も、埼玉・千葉・神奈川県など10県に及びました。
>
> ○5月22日（土）14:00～17:00の、第109回つどいは中止します。
>
> ○5月のつどいで行っていた総会は、2年続けて開催出来ないので、議案を会員に送付し、ハガキにて承認を求めることにします。返信ハガキには、近況などお寄せください。
>
> ○8月28日（土）のつどい会場は予約できました。場所は、武蔵野商工会議所です。
>
> 2021年5月16日　　青空の会世話役会

☆5月25日（火）コロナ感染者に対応している医療機関に、感謝の気持ちを込めて、絵手紙（50枚）を、下記の書とともに、順次贈る。



送付先：(1) 林山クリニック　梁勝則院長　神戸市、(2)長尾クリニック　長尾和宏院長　尼崎市、(3) いせ在宅医療クリニック　遠藤太久郎院長　三重県伊勢市、(4)立川相互病院　山田秀樹筆頭副院長　立川市（1～3は日本ホスピス・在宅ケア研究会の医師）

☆5月29日（土）　2021年度総会資料（5月22日付、2019年度と2020年度の行事報告および収支計算書、2021年度の行事予定・事業計画および活動予算案など）投函、返信はがきで、議案に対する賛成・保留・反対を求める。近況報告を依頼。
会員111人のうち返信61通で、賛成57、保留2，棄権2であった（6月29日）。
議案および世話役24人が承認された。

【表紙絵手紙：山本栄子さん、新妻ヨシ子さん、カット絵手紙：犬飼恭瑞子さん、山本栄子さん、新妻ヨシ子さん】

最期のお別れについてのアンケート（報告）

中野貞彦

【1】日本ホスピス・在宅ケア研究会の10月の熊本大会で、グリーフケア部会の小集会が企画に上がり、私も関わることになり、急きょ思い立って、依頼文【2】とアンケート回答用紙【3】を作成して、アンケートを実施した。

【2】アンケートのお願い　　2021年6月8日　　中野貞彦

梅雨の候、例年なら、時々の晴れ間を楽しんでいる頃ですが、昨年初めより続く新型コロナ感染症のために、外出を控えての生活をそれぞれ工夫をしながら過ごされていることと思います。

さて、急なお願いがあります。

私は、日本ホスピス･在宅ケア研究会（http://www2.toshiseikatsu.net/hospice/）の理事をしており、グリーフケア部会を担当しています。毎年の全国大会で、グリーフケア部会の企画をたてて、小さな集まりを持っています。昨年は福井で大会がありましたが、全てオンライン形式であったため、グリーフケア部会の企画はパスしました。

今年は、10月16，17日に熊本（https://hospice-kumamoto.org/）で開催されます。私も、現地に行って小さな集まりを持ち、オンラインでも結んで行うことになりました。一緒に理事をやっている高木和子さん（岐阜）、熊本からのお二人（グループホームの看護師さん、まちの保健室的役割の喫茶室をオープンした方）とで相談をし、準備を進めています。

・日時：大会2日目　2021年10月17日（日）9:00～10:20
・場所：展示会場C（益城町・グランメッセ熊本）

テーマは、「最期のお別れと悲嘆に向き合う（案）」ということを考えています。

そこで、コロナ禍のもとで、最期のお別れがどのようであったか、について、アンケートをおこなって、実情とお気持ちを知りたいと思い、ご協力をお願いいたします。グリーフケア部会の企画に役立てたいのと、うまくまとまれば、青空の会の冊子に、報告したいと考えています。

アンケート用紙にご記入のうえ、1週間くらいで返送していただければ、幸いです。しかし、思い出して記入するのは、たいへんにお辛いことと思います。筆がどうしても持てないようでしたら、ご無理しないでいただきたいと思います。

コロナ禍で、ワクチンもようやく打てるようになりましたが、どうぞご自愛ください。

【3】最期のお別れについてのアンケート（回答用紙）（A4の1頁、2～5には記入欄を設ける）

【ご回答者：(30，40，50，60，70，80、　）歳代、（　男性、女性　）該当に○】

0，亡くなられた方について　続柄：（　　）、お歳：（　　）歳

1，どこで亡くなられましたか？（該当に○）いつ亡くなられましたか？

病院の一般病棟、病院の緩和病棟、ホスピス、在宅、施設（　　）
（　　）年（　　）月
２，どのようか経過をたどられましたか？　簡潔にご記入ください。
３，在宅以外の場合、面会はできましたか？　どのような制約がありましたか？
４，最期のお別れはできましたか？　ご家族はいかがでしたか？
５，医療者･病院･施設の対応はいかがでしたか？　またお気持ちをお書き下さい。

【４】アンケートの実施方法・回答

・対象：青空の会に最近入会された方、またコロナ以前の方にもご協力をお願いした（おおむね 2017 年以降入会の方）。喪中はがきをいただいた方、私の親族にも依頼した。
・郵送：合計で 49 人に、返信封筒を同封して、6 月 11 日～6 月 17 日に投函した。
・回答：7 月 6 日現在 34 人（69.4%）から回答が届いた。内 4 通はそれぞれのご事情で白紙であった。1 通には「今の私には、夫の闘病のことを冷静に振り返ることができません。･･･いつかきっと同じ体験をされた方々のために活動したいと思っています」との手紙が同封されていた。
・ご協力いただいた方に、心より感謝いたします。

【５】アンケート回答の掲載

回答をそのまま記載した方が、回答者のお気持ちが伝わるので、番号を付して年代順に掲載する。全部で 29 回答である。

最初の行に、逝去年月、続柄、お歳、亡くなられた場所、(回答者の性別、年代)、という順序で記す。続いて、[経過]、[面会]、[最期のお別れ]、[対応、お気持ち] という順序で記す。がん、ガン、癌の表記はそのまま記載した。

（１）2003 年 11 月、夫、59 歳、一般病棟（女性、60 代）

[経過] 2003 年６月　腹が痛いと近所の胃腸科を受診。すぐに癌センターを紹介され、検査の結果、食道癌がリンパから肝臓へと転移。ステージ４、余命半年の宣告。抗癌剤１クールで、緩和病棟を探す様言われ、最初に受診した近所の病院へと戻される。

[面会] 移った病院では面会はいつでも何時まででも自由にさせていただき、ずっとつきそっている事ができました。

[最期のお別れ] 家族はもちろん夫の兄弟までが最後の臨終に立ち合う事ができました。

[対応、お気持ち] 緩和ケアがどうかはわかりませんが、気持ち的には最後までいつもそばに居れて、先生や病院の対応には感謝しています。むしろ肝心の癌センターの事務的な対応や冷たさには、もっと夫を助けることができたのでは･･･と、いまだに後悔したり、引きずる事があります。

（２）2007 年 2 月、妻、61 歳、ホスピス（男性、70 代）

[経過] 排泄物に出血、検査の結果、子宮たいガンでリンパにまで転移。慶応病院に

於て子宮摘出手術、その後の抗ガン剤治療を拒否。放射線治療等通院治療を経て再発。本人が慶応病院に通院しながら聖路加病院のホスピスへの外来にも通院。自宅療養後痛みが激しくなり慶応病院へ緊急入院し、聖路加ホスピスの空きを待って直ぐに転院。その後 10 数日の入院後他界しました。

[面会] 慶応病院に於ても通常の面会等が何等の制約らしきものは無し。聖路加ホスピスに於ては病院に宿泊しながらの看病も出来ました。

[最期のお別れ] 深夜の３時頃でしたが、私と娘で看取ることが出来ました。

[対応、お気持ち] 放射線治療等の為に予約日の予約時間に行って、数分間の問診を含めて 2～3 時間を要することが常態化しており、大学病院での外来通院の有り方がもう少し改善されると良いと思います。

（３）2007 年 5 月、夫、62 歳、一般病棟（女性、60 代）

[経過] 2002 年 6 月頃胃ガン（ステージⅣ）胃全摘、入退院をくりかえし、2006 年 11 月頃最後の入院。末期ガンで入院 179 日、フゥーと大きな息をして眠るように亡くなりました。

[面会] 夫が入院、亡くなった病院は 19 床の開業医です。179 日間個室で付き添いました。制約はありませんでした。

[最期のお別れ] はい、できました。夫は自分の死が近いとわかっていたみたいです。夫の最後の言葉は「しっかり生きなさい」でした。毎日忘れることはありません。なぜ、どうして私をおいて死んでしまったのと時々思います。今は元気にしっかり生きてます。私が亡くなってさみしさが終ります。

[対応、お気持ち] 開業医の先生や看護師さんたちも夫をよくしてもらいました。夫にしたら大病院より開業医の病院でよかったと思いました。でも夫にたいして、するだけの治療をしてくれました。もうする治療がないと言われた時は夫の命の期限をきられたと思いました。初めて悲しくて泣きました。

（４）2013 年 1 月、夫、57 歳、一般病棟（女性、60 代）

[経過] 小学校勤務していました。異動したばかりの４月中旬に赤い発疹が出たため、自宅近くのかかりつけの医院受診しました。本人は食べあわせが悪かったのかと思う位でしたが、血液検査の翌日医師からTELがあり、結果があまりよくないので紹介状を用意するので明日にでも大学病院（血液科）を受診するよう指示があり、勤務したばかりの学校に相談後、翌日受診し入院となる。進行が早くみるみるうちに悪くなっていく様子。抗がん剤治療を何度も繰返し（5 月～11 月頃まで）脳に転移がみつかり、自宅の近くの病院に転院し放射線治療約 1 ヵ月、在宅介護をめざしていましたが 1 月 24 日に死去する。

[面会] 私も小学校勤務していたのですが、仕事が終りすぐに病院にむかい(片道 1 時間半）面会を毎日おこなっていました。個室にして頂き、差し入れや会話ができました。血液の病気でしたので、他の人との面会は遠慮して頂きました。9 月末で私は仕事をやめ、できるだけ一緒にいられる時間を増しました。

[最期のお別れ] ひとり娘の結婚式には、車椅子で出席できました。病院から結婚式場が遠かったので、担当医が細やかな紹介状も用意して下さり、持参して出席しました。娘も 12 月から介護休暇を取り、ふたりで交替しながら付き添いました。最後

のお別れは、私、娘夫妻、主人の兄弟で見送りました。主人の母と同居でしたので、高齢のため生活の協力が必要でした（今も）。

［対応、お気持ち］〇良い対応

・本人はもちろん私たち家族にもやさしく声掛けして頂き支えとなりました。

・最後の病院の婦長さんが毎晩部屋に来てくれ、主人の手足のマッサージや、私には優しく声がけがとてもありがたかったです。

・リハビリの先生が主人の興味のある電車や温泉の話を一緒にしてくださり、うれしかったようです。

〇悪い対応

・大学病院では担当医師がよくかわり、私の意志が伝わっていないこと。

・なかなか治療が良い結果にならず、次の治療への希望をお願いした時「だめもとでやってみますか？」と言われ辛いおもいをした。

（５）2013 年 2 月、母、65 歳、緩和病棟（女性、40 代）

［経過］肺癌の闘病をしていたが腸の状態が悪くなり、腹膜炎もしくは亜イレウスと診断され緩和病棟に入院した。退院することなく１ヶ月程で亡くなった。平成 24 年 12 月のレセプトには癌性腹膜腎機能低下と確定診断があったが、医師は亜イレウスと説明し絶食措置をした。輸液だけの入院が１ヶ月ほど続き、意識が鮮明なまま呼吸困難が耐え難いほどになり絶命した。

［面会］病院に毎日寝泊まりをした。病院に歩行器の貸出しをお願いしたが断られた。母は眠れないようで午前中ウトウトしていた。看護師が起こしてしまうので眠らせてほしいと言うと「仕事なので」と返事をされた。眠らせたいのに眠らせてあげられない、食べたいのに食べさせてあげられない。衛生管理も悪かった。酸素の水がなくなって激しい音を立てているのに放置されていた。看護師との関係のために傍にいることが上手にできなかった。

［最期のお別れ］呼吸が止まってもまだ耳は聞こえているというときに主治医から「別室を用意しましょうか」と提案されたので「お願いします」と言うと「そんなものはありません」と言われた。主治医を非難したのが最期の言葉となってしまった。

［対応、お気持ち］腹膜炎と亜イレウスは違うのではないかと思う。私が納得できないでいると説明を拒否していると言われ、反発している、適応能力がない、現状を受け入れることができないと言われる始末だった。また私のそんな状況を根拠に、病状の深刻な母に再三にわたり死後のことを実姉に相談するよう医療関係者は強いていた。そして医療関係者と母とその姉で話し合いは行われた。患者に対する配慮など微塵もない。緩和病棟では検査も行わない。衛生管理もしない。家族は邪魔でしかなかった。疑問ばかりあり、今も病院に対する怒りを抱えている。母が辛そうであった。

（６）2014 年 9 月、夫、67 歳、緩和病棟・ホスピス（女性、70 代）

［経過］みぞおちの不快と痛み、背中痛を訴え、スイ臓ガンと判明。その三年前栃木県立ガンセンターで前立腺ガン手術時から同様症状を訴えていましたので、当時から発症していたのでは？と、私なりに考えています。スイ管中央部ガンの為、スイ

頭部より 2/3 位の切除手術を受けました。背骨部に大動脈転移がみられましたが、抗ガン剤等の治療は出来ずに、術後７ヶ月目に亡くなりました。

［面会］時間制約なしで、ＡＭからＰＭ9：00・10：00 可能。病室に宿泊も出来ました。見舞客も時間内は自由でした。因みに、私の友人が一人介護の私を想い、月から金曜日ほぼ毎日、亡くなる前日まで見舞ってくれて、私の話し相手としてサポートしてくれました。

［最期のお別れ］亡くなる前日、私の友人２人と共に、ベッドに起き上がり、アイスクリームを相当量おいしそうに食べて、“バイバイ”と手を振り見舞のお礼と見送りをする位、状態は安定していました。その夜、看護師さん２人？により、モルヒネの量を調整、通常より量が多いなーと私なりの印象で不信感でおりましたが、よく眠っていると思い、その日は帰宅（ＰＭ10：00 頃）。翌朝早く急変の連絡あり･･･間に合いませんでした。他県にいる息子・里子・兄・姉もお別れすることは出来ませんでした。

［対応、お気持ち］栃木県内の自治医大、診断から手術、一般病棟に４ヶ月、ホスピスに２ヶ月位の入院となりました。執刀医は術後直後に転勤、執刀医より転勤先への転院をすすめられましたが、夫の意志でそのままになりました。その後 Dr.4 人がチームで担当していただきました。No.3 とみられる Dr. がとても親身に接して下さり、家族・本人が受けたい治療（当時免疫療法他、民間レベルの療法）でも対応しますよ･･･と言って下さいました。一般病棟入院中、チームリーダーDr. より施す治療は無いので転院したら･･･と打診されましたが、No.2？Dr.が最後まで当院でと伝えて下さいました。看護主任より、転院やホスピス行きを勧められ不信感!! No.2 Dr.より、夫の性格上、ホスピスは夫の落胆が心配だから･･･と、一般病棟にいられるようになりました。しかし陰では看護士が、ホスピス行きを打診してくるなどありました。そのうち、呼び出しベルを押しても看護士さんが来てくれなくなった等々の状況となり、夫・私とも、意に反しての同院ホスピス行きとなりました。No.2 Dr.はここ（一般病棟）にいればと言って下さいました。ホスピスにも出向いて下さいました。最後の時を迎えた時の病院側（主に看護士さん）との意志疎通がギクシャクしていたように感じたのは今でも後悔しています。患者本人はもちろん、家族の精神的な、理解と援助があったら･･･と、一人介護で精神的に平常な状態でなくなっていた私が、後になって望むことです。

（７）2016 年 5 月、妻、72 歳、一般病棟（男性、70 代）

［経過］2015 年 9 月 大腿骨の骨折で入院／2015 年 10 月～11 月 パーキンソン症状出る。重症化。人口呼吸器装着／2015 年 12 月末 回復／2016 年 一般病棟へ／2016 年 転院し回復を待つが、耐性菌増殖で死亡

［面会］できた。特にない。

［最期のお別れ］2016 年 5 月 2 日～13 日まで眠ったままが続きできなかった。他の家族も。

［対応、お気持ち］抗生物質耐性菌による嗜（し）眠・意識低下に早く気がついて欲しかった。主治医も「油断があった」と述懐。私は亡くなる２日前に気がつき、相談したが、悔いが大きい。

（８）2016 年 7 月、夫、65 歳、緩和病棟（女性、60 代）

[経過] 2010 年 2 月大腸ガンステージ４と診断される。それ以降 2016 年 7 月に亡くなるまで千葉県柏市にある「国立がん研究センター東病院」にて手術、抗がん剤治療等受ける。2016 年 4 月に抗がん剤治療を受けていた担当医より余命 3 ヶ月と宣告され、それ以降は抗がん剤の投与もなくなり、整腸剤、痛み止め等の基礎的な薬のみ。2 週間に 1 度通院し薬の処方を受ける。7 月に入り、夫の様子はかなり弱ってきている様でしたが、検診及び薬の処方の為通院。担当医の判断でそのまま緩和病棟へ入院となる（7 月 7 日です）。

[面会] できた。本人（夫）の希望で最後はお世話になった病院（国立がん研究センター東病院）の緩和病棟に入院したいとの事だったので、通常の検診（その時は既に 3 ヶ月程前に余命宣告をされていた）に行った折、夫の状態を診て、担当医よりそろそろの入院を勧められ、そのまま入院。私達家族（私や娘）は今後一切の治療や、酸素マスク等を付けないという説明を受け、誓約書にサイン、「痛み」等の緩和のみとの事。その時は担当医も替わり「今後どの位入院するかもわからない」と言われる。

[最期のお別れ] できた。7 月 7 日に緩和病棟に入院し、翌日私が病院に行くと、夫はほとんどベッドに横たわっていたが、時折起きては自力でトイレに行ったり、持参した果物を食べたりしていた。その翌日、娘と共に病院へ行く準備をしていると、病院より TEL、脈が弱くなっているとの事。私達は朝食を食べている頃だったが、あわてて病院へ直行。車中にて長女等にも連絡。病院に着くと、昨日とは全然違う夫の姿が･･･。身体には点滴が付けられ起き上がるのも大変そう。夕方看護師より、これから最後に向かう説明を受け、私と娘 2 人はそのまま病院へ泊ることに。翌日（7 月 10 日）午前 7 時頃、昨日の説明の様な状況となり、私達 3 人に看取られて、旅立った。

[対応、お気持ち] 緩和病棟に入院して、あまりにあっけなく逝ってしまったので、受け入れられない思いだったが、病院の対応はまずまずだったと思う。苦痛を感じているようには見えなかった。又、最後の晩、泊まる様勧めてくれたのも看護師だった。唯、いよいよ最後の様な状態になった時、ナースコールを押しても来てくれず、ナースステーションに行っても看護師が不在（？）みたいで、来てくれなかった。（その日が日曜日だったからなのか？）結局、娘と 3 人で最期の瞬間を迎えた。声に出して会話をする事はできなかったが、夫が口をパクパクさせて、娘が「ありがとう」と言っているの？と聞くとうなずいてくれた。

（９）2017 年 12 月、妻、59 歳、一般病棟（男性、50 代）

[経過] 抗ガン剤治療を続けながら通院していたが、肺に水が貯まったため入院。その後一気に体調が悪くなり２ヶ月で亡くなった。

[面会] 亡くなる一週間前は病院に泊まりきりで、ずっと妻のそばにつきそうことが出来た。制約もなかった。

[最期のお別れ] 最期のお別れは出来た。

[対応、お気持ち] 医療者、病院、施設の対応は良かった。最後は投与剤も痛み止めだったが、妻に生きる希望をもたせるために、治療薬を無駄でも病院側から投与する配慮がほしかった。

（１０）2018 年 2 月、夫、71 歳、在宅（女性、70 代）

[経過] 2016 年 3 月　下咽頭ガンと診断。手術、抗ガン剤、放射線治療で９月退院（県立がんセンター）／2017 年 1 月　肺に転移。治療を勧められたが断わり、最後の抗ガン剤治療／同年 9 月　効果なく完了。ガン難民となり丸山ワクチン、免疫治療、低用量抗ガン剤治療　／2018 年 1 月　一進一退の中、肺が苦しく緩和ケアへ。訪問看護と訪問医師により在宅治療　（近くの病院）／2 月　亡くなる（自宅で）

[最期のお別れ] 亡くなる前日に本人は眠れず以前病院からもらっていたオプソを取って欲しいと言われ、それを飲んでからはよく眠れるようになり、うとうとしながら苦しまずに亡くなった。自宅だったので最後まで自分で育てた草木を眺め、小動物や娘、孫の訪問は在宅希望の本人には幸せだったのではないかと家族で話した。一週間前に遺言書を渡してきたがこれがお別れを意味しているのではないかと思う。本人はもっと生きたいと思っていたので直接別れの言葉は聞けなかったが家族で看取った。

[対応、お気持ち] 医師から余命宣告を淡々とされた時の打ちのめされた気持は今も思い出す。もう少し患者により沿って欲しいと思った。主人はそこに通院することをためらってしまった（県立がんセンター）。緩和ケアの訪問看護は家族にとって励みとなった。てきぱきと動いて下さった。今考えると余命など信じられなかったが、宣告日を過ぎた頃から体力と食欲がガクンと落ち、良い方向に向かうとは思えなかった。宣告日から２ヶ月後に亡くなったので先生の冷たい言葉は当たっていたのだが、あの時どのように言葉がけしてもらったら良かったのか今だに疑問である。一番つらかったのはガン難民となって自分で対応を考えなくてはならない時期である。そのような時に親身になってくださる医師がいたら･･･今も思う。

（１１）2019 年 3 月、夫、66 歳、在宅（女性、60 代）

[経過] 2017 年 5 月　食道癌と診断される。手術／2018 年 1 月　PETCT で仙骨部に癌転移／2018 年 9 月頃より杖歩行が不安定となり車いす生活となる／2019 年 3 月　CT で胸水貯留がわかり在宅 O_2 使用／2019 年 3 月 21 日　死亡

[最期のお別れ] 約６ヶ月介護をしておだやかな生活の中で大事な話ができたので、最期の別れは少しずつできていた。

[対応、お気持ち] どの病院もよくやってくれたと思います。ただ病院受診のたびに悪いところがみつかり、良い方向に向かっていないことを受けとめることはとても辛かったです。三回忌まできばって生きてきましたが、最近そんな自分に疲れを感じてきています。時間と伴にいやされると思っていましたが、そうではないことに気づきます、これからずっと続くのだろうと思うと、どんどん時間と伴に辛くなってきています。

（１２）2019 年 5 月、父、69 歳、一般病棟（女性、40 代）

[経過] つらくてかけません。

[面会]　はい。

[最期のお別れ]　いいえ。まにあいませんでした。

[対応、お気持ち]　冷たかったです。担当看護師の方はとてもよくして下さいまし

たが、末期のケアもなしでした。日赤の緩和ケア病棟とは大ちがいでした。あの病院にいれてよかったのか、いまだに後悔しかありません。治療をやめて豊島区のホスピスに移送すればよかった。思い出すとつらいです。

（１３）2019 年 10 月、妻、59 歳、緩和病棟（男性、60 代）

[経過] スキルス癌発覚 18 ヶ月後、急激に症状が悪化し、入院したときにはすでに末期で、会話もままならない状況。2～3 日後に緩和病棟に移ったものの、５日後に亡くなる、本人の希望もあり延命措置はおこなわなかった。

[面会] 考え得る身内にはすべて声をかけ、亡くなる直前に面会することができた。

[最期のお別れ] コロナの前ということもあって、しっかりとお別れはできたと認識している。

[対応、お気持ち] 緩和病棟の担当医師はつめたい印象を持った。医師として労務を淡々とこなしている感じ。もう少し家族に寄り添ってほしかった。看護師もしかりでした。

（１４）2020 年 3 月、母、100 歳、施設（老人ホーム）（女性、60 代）

[経過] 2016 年の熊本地震後、体調を崩し、自宅での生活がむずかしくなったので施設でお世話になっていました。施設では食事の管理もよく、いき届いたお世話のおかげで元気になっていました。ただ車椅子生活が長く、床ずれをもっていたところが悪化して、３月に 40°C 近い高熱がでて、それからしばらくして意識がなくなり、眠るように亡くなりました。

[面会] 施設には週に１回兄といっしょに訪問していましたが、２月頃からコロナのために面会禁止となり会えなくなりました。高熱が出てからは呼んでくださって会いに行きましたが、施設ですのでずっといっしょにはいられませんでした。意識がなくなったという連絡を受けて、ねむっている母のそばにしばらくいましたが、夕方帰宅しました。その夜「息をしていない」という連絡を受けて訪問しましたが、もう亡くなっていました。

[最期のお別れ] 亡くなるまでつきそうことができなかったのは残念でしたが、施設にあずけた時点で覚悟はしていました。むしろ、コロナで最後の２月くらい、会いにいけなかったのが心残りです。葬儀では、神奈川にいる姉がコロナで列席することができませんでした。ただ葬儀自体はぎりぎりで普通に行なうことができてよかったです。

[対応、お気持ち] 以前父が亡くなるとき、延命治療でかえって苦しませてしまったのが悔やまれて，母のときは入院などはお断りしました。ドクターは施設にひんぱんにきてくださって、よく診ていただいたと思います。施設のスタッフの方達もよい方達ばかりで、食事もおいしいと言っていましたので、母にとってはよかったのではないかと思います。ただ本当は、ずっとそばで看取りたかったなあと今でも思います。

（１５）2020 年 5 月、夫、73 歳、在宅（女性、70 代）

[経過] 海外支援から帰国して半年後、股関節の訴え、検査の結果前立腺ガンか、わずか骨転移。ホルモン療法→放射→抗ガン剤の治療をしてましたが。その間も支援に３回程渡航。徐々に痛みを訴え、その痛さに耐えられず、モルヒネを本人が要望。１ヶ月で在宅の医療を受け、旅立ちました。（在宅での看護でした。）

[最期のお別れ] 私の誕生日の翌日、家にいた娘、息子を初出勤で送り、ひと息ついて、園芸を楽しみにしていましたので水やりをしてた時声がしました。それが最後でした。数分後気になって駆けつけました。肩から血の気がなくなり、もう冷たくなっており、大変後悔しています。その日にお別れ等考えていませんでした。

[対応、お気持ち] 最後の診察でもう治療がありません。「あの時抗ガン剤を勧めたのですが」とのことでしたが記憶にありません。国立の病院にしては、あんなにやさしかった先生が･･･との思いです。在宅ケアの先生は気持が負けてしまったんですと。

（１６）2020 年 6 月、夫、76 歳、一般病棟（女性、70 代）

[経過] 夫は 20 年前初期の食道ガンを手術し回復。その後肺気腫になりましたが、亡くなる半年前「心臓が悪い」と夫が訴え、初めて心臓の検査をした。そこで心臓がかなり悪いとことが判明。しかし検査入院中に肺炎になった。食事もとれず退院させられ、当初の病院にリハビリ入院したが、病院のトイレで心不全で死亡した。

[面会] 検査入院した病院は全く面会できず、退院時初めて夫と逢った（3 週間ぶりに逢ったがかなりやせていた）38 kg。当初の病院は夫の知り合いということもあり、週 3 回 10 分間フィルターごしだった。しかし夫はほとんど声が出ず、話の内容は聞きとれなかった。会話はない。

[最期のお別れ] 夜中に病院から電話があり、かけつけた時は心臓マッサージを受けていた。コロナではなかったため逢えたが、すでに亡くなっていた。亡くなった夫を息子の運転する車（乗用車）で、私が抱いて帰宅した。こういう事があるのか、今も疑問。

[対応、お気持ち] 肺気腫と言われていたが、胸水があったり足がかなりむくんでいたが、何の検査もせず、夫が「心臓が苦しい」と言って、初めて専門病院で受診することになった。早期に検査をしていればと不満と怒りがある。検査入院した病院は、カテーテルのあと胃カメラを撮ると言っていたが、実際は胃カメラではなく、口から機械を入れるエコーだった。このエコーで肺炎になった。両病院とも誠実でなかった。不満は大きい。

（１７）2020 年 6 月、母、101 歳、一般病棟（男性、70 代）

[経過] 2019 年暮に、住んでいた施設（サ高住）でころび、大腿骨を折って以降、病院→施設→病院を繰り返し、最後は病院で死去した。

[面会] この頃、施設も病院も面会は不可能であり、亡くなる前日に施設から「状況が悪いので、入院していただきます」という連絡があり、それに立ち合った。これが生前の母に接した最後になった。

[最期のお別れ] 翌日、病院から呼び出しがあった時は、あいにくやや遠方に外出しており、病院に駆け付けたときはすでに亡くなっていた。この日外出していたのは、上記のように入退院を繰り返していたので、今回もしばらくしたらまた施設に戻ることになるだろうと考えていたためである（それくらい前日の状況は切迫したものには見えなかった）。家族にも連絡したが、皆、事後になった。

[対応、お気持ち] 医療者・病院・施設の方々には本当によくしていただいたと感謝

している。真摯に対応していただいた。最期に看取れなかったことに悔いを感じている。

（１８）2020 年 7 月、父、95 歳、一般病棟（女性、60 代）

[経過] ５年前膀胱ガン発症（血尿が続き来院）。手術するが取り切れず深部に残る。その後尿が出なくなり（患部からの出血が尿道をふさぐ）出血部を焼く手術をする。2 年後再発、血尿多くなり入院。弱い放射線治療を試すが、半年後又再発。その後も尿が出なくなりやすく、入院繰り返す。コロナ渦で思うように面会できない間、急激に痩せる。亡くなる当日、腎臓カテーテル交換の手術の予定だったが、微熱、食欲不振の為中止。急激に悪化し、当夜亡くなる。

[面会] ガンセンターでは宣言中は全く面会できず、必要なものは 1F の係りの人に預けるのみ。宣言外では、一人ずつ 5～10 分のみ、父の近くには寄れませんでした。施設（度重なる入院で亡くなる数ヶ月前には全く歩けなくなり、施設に一時入所）では父の部屋のドアの所から会ったり、玄関まで連れて来て下さり、5 分程会うことができましたが、やはり思うように父の近くには寄れませんでした。

[最期のお別れ] 妹からの連絡で、夕方でしたがすぐに駆け付け（3 時間かかる）、約 2 時間後に亡くなりました。病院側も予想していなかったようで、妹の勘が働かなかったら、私も間に合いませんでした。妹の家族はすぐに車で駆けつけ、間に合いました（妹家族はガンセンターから車で 20 分程）。姉、兄は急変するとは想像し難かったので、翌朝来院予定で会えませんでした。父の最期は、個室だったこともあり許可が下り、父の耳元で声かけ、体や手足をさすったり、なでたりすることができました（妹、私のみ）。幸せなお別れができたと感謝です。

[対応、お気持ち] 病院：常時対応はとても良かったです。患者や家族の身になって、行動してくださり感謝の思いです。施設：思うようにいかないこともありましたが、コロナ渦で仕方ないと諦めました。（ほんのひとときでも車イスのまま、家に入れなくてもいいので、庭、屋敷を見せてあげたかった。）数ヶ月帰宅できないままだったので、心残りです。

★姉の句（父が入院してから作り始めました）

父入院 帰宅遠く 夏の空

痩せし父 子らの想いに 皐月咲く

（１９）2020 年 8 月、義父、77 歳、一般病棟（女性、30 代）

[経過] がんのため自宅療養をしていましたが、状況が悪化し入院しました。入院し、1 ヶ月程で亡くなりました。自宅ではポートから高カロリー輸血などもしました。

[面会] 面会は一人ずつでした。個人防護具をきての面会です。12 才以下は面会禁止、同居家族のみでした。面会前に熱をはかり面会。個室だったので面会可能だったそうです。

[最期のお別れ] 最期は妻、子（4 人）は立ち会えました。

[対応、お気持ち] コロナ渦なのに、面会をできる限りご配慮頂き感謝しています。酸素マスクをしていたり、誤えんのリスクがある時期も、本人が「コーラを飲みたい」と言うと、スポンジにしめらせて飲ませてくれました。部屋も片付いており、

清潔に保たれ、本当に大切に接して下さっていると感じられました。妻（義母）への声かけはもちろん、嫁の私にまで看護師さんがねぎらいの声かけをしてくれました。

（２０）2020 年 8 月、義母（夫の実母）、88 歳、一般病棟（女性、60 代）

[経過] 検査入院したけれど、病院内で転倒→脳出血（半身マヒ、失語症、寝たきり）→急激に腎機能低下→死亡　この間２週間

[面会] 病院は面会できず。医師から病状説明時に依頼して１回だけ本人と面会できた。この１回きりで、病院から急変の知らせが来た時は間に合わなかった。

[最期のお別れ] できなかった。脳出血後、医療者に「今後について本人の意思を確かめてほしい」と依頼。失語症になった義母はふるえる文字で紙に「死にたい」と３回書いた。その紙を見せてもらい、家族（息子夫婦）として、積極的治療は不要と書類に書いてサインした（＝ACP）。

[対応、お気持ち] コロナ禍ゆえに面会制限はしかたなかったと思うが、急変した本人にとって、心細かったと思う。息子を頼りにしていた義母故に会えなかったのは心残りだったと思います。

（２１）2020 年 8 月、母、91 歳、一般病棟（女性、70 代）

[経過] 2016 年 7 月　福山から相模原へ転居、グループホームに入所。
2018 年 3 月　誤飲性肺炎で緊急入院。５月　胃ろうの手術。６月　手術を受けた病院の介護療養病棟へ移動。７月　別の病院へ転院（介護病棟へ）。11 月　医療病棟へ（栄養点滴となる）両肺とも白く、左肺には水がたまっていて、いつ心臓がとまってもおかしくない状態との事。

[面会] 2020 年 2 月 19 日より面会不可。3 月 27 日より 5 分以内と言う事で特別に面会かなう。6 月 10 日よりリモートによる 10 分以内の面会可能に。（予約制で希望者が多い為、3 週間～1 ヶ月に 1 回程度）

[最期のお別れ] 2020 年 8 月 9 日　午後病院から連絡があり、私一人、母との別れをする事が出来ました。

[対応、お気持ち] コロナ渦で思うように会えなかった事は心残りですが、年齢的に 91 才と高齢であった事、認知症をわずらい大変な時期を過ごして来た事、病院に入院してからは、管につながれ、しだいに衰えていく姿を見守って来たので、母の死に際しては“よく頑張ってくれたね。ありがとうね”の言葉のみです。あちらの世で父と会ってホッとしていると思います。転院先の病院では節目節目に医師の説明があり、看護師にも日々よくしていただきました。

（２２）2020 年 9 月、実父、106 歳、施設（介護付有料老人ホーム）（女性、70 代）

[経過] 亡くなる 1 ヶ月前に転んで骨盤骨折をして入院しましたが、大声でさわぐため施設に戻りました。入所者の方からも苦情が出て、小さな部屋に移りましたが変わらずでした。体力もなくなり、このままでは命もあぶないとの診断で、水分補給の点滴を 5 本受けましたが、精神状態も悪くなり、認知症もひどくなりました。（せん妄と言うらしいです。）痛み止めの錠剤を半粒だけ飲むと、ねむくなり、少しだけ静かになりますが、さめると元に戻って大声を出してましたが、そのうちそれもなくなり、静かになって、呼吸が止まりました。

[面会] 施設での面会は、事前予約で 15 分～20 分でした。ロビーでの対面でした。亡くなる 10 日前からは毎日私は行っていました。車いす使用でした。不思議な事がありました。40 代の孫娘が面会に来ましたら、正気に戻り、中学校の生徒さんを見て「はやくあのように学生が戻って来たら、うれしいネ。コロナが終ってほしいネ！」と言ったそうです。これには孫娘がビックリ！ しかしすぐに、又グダグダだったそうですが･･･（孫力が効いたと皆喜びました。）

[最期のお別れ] 施設へは認知症が出てきてからは、姉弟 4 人で交代で行っていました。当日は、私は朝 6 時に行きました。6 時 19 分にすぅ～と呼吸が止まりました。静かにねむるように終わりました。不思議な安堵感がありました。これは自分でも想定していませんでした。父と共に施設を出る時には、40 人程のスタッフの方が見送って下さり、感激しました。保証人だった弟は泣いていました。

[対応、お気持ち] とても良くしていただきました。付きそいは大変疲れますが、いろいろと気遣って下さいました。帰りのタクシーも呼んでいただきました。この看取りには、私としては、全く後悔はありませんでした。人が来てくれないと嘆く父のために、親せきの者に連絡して来てもらいました。104 歳、105 歳、106 歳とお誕生会も企画して、沢山の親類に集まってもらいました。ロビーがにぎやかになり、何してるの？ と人が集まってきたこともありました。孫のピアノ演奏も楽しい思い出です。

（２３）2020 年 11 月、母、105 歳、一般病棟（女性、70 代＋弟）

[経過] 97 才のとき、介護施設へ週２日デイサービス→１泊を含む４日デイサービスへ（認知症要支援 2）。99 才の時、ショートステイ（毎日泊）入居。外出可なので家族と外食月に 4,5 回。100 才で 2 回大腿骨骨折入院手術、車イス生活（要介護 4 認定）。その後施設へ定期的に訪問診療、訪問看護。コロナ発生で面会できない。2020 年 3 月～。誤嚥性肺炎の疑いで病院に入院。痰吸引･･･その後肺炎で死去。

[面会] コロナでは面会できず、ベランダからガラス越しに様子を見る。認知症のため対話は不可。病院では全く面会できず、担当医師に家族が面会し、状況を聞く。前日個室で面会が（子供夫婦）許される。翌朝死去。

母 T4.6.29 生れ、7 月 1 日に妹弟夫婦（5 名）で面会叶い、ハッピーバースディー歌い、母の声も動画に入ってました。

[最期のお別れ] 前日血圧低下、意識なし、子供夫婦話しかけるも反応なし。翌朝、家族が連絡で病院に着くも、呼吸、心肺停止。子どもがそろったところで臨終。東京の長女はコロナで行けず、妹（次女）の「母の顔若い頃のようにきれい」の言葉を弟に伝えたら写真送信してくれ、ネットで見送れました。102 歳の誕生会の後は弟のホームページで逢ってました。103 歳の時、三女のがんが分かり翌 4 月の告別式の時も母の所は寄らず。

[対応、お気持ち] 病院：ていねいに見てくれた。介護施設：もどってくることを期待していた。家族：105 才の高齢、延命措置は希望しなかった。やすらかに旅立った。活動的な母でした。「継続は宝なり」90 代の母のことば。母の生き方、これから生きていく私にも誇りと自信になっています。90 歳の富士登山（5～7 合目）のバンザイの写真飾ってます。

（２４）2020 年 12 月、母、97 歳、施設（老健）（女性、60 代）

[経過] 当日の朝食は車椅子でいつも通り食べ、その後ベッドで寝ていた。スタッフが昼食のため起こしに行ったところ、ほとんど息がなかった。

[面会] 昨年 3 月以降、コロナのため面会は中止。夏頃からラインで概ね週 1 回のＷＥＢ面会をしていた。

[最期のお別れ] 亡くなったのが急だったため、誰も間に合わなかった。コロナでなくても同様だったと思う。

[対応、お気持ち] コロナ以降、ほとんど毎日来ていた娘達がバッタリ来なくなったことを、母がどう理解していたか（よく理解できてなかったと思う）知る由もないが、寂しかっただろうと可愛そうに思う。施設やスタッフは日頃から丁寧にみてくださっていて感謝している。

（２５）2020 年 12 月、実母、97 歳、施設（グループホーム）（男性、70 代）

[経過]

1. 骨折で入院手術、リハビリ病院 3 ヶ月を経て介護施設に入居（2 年 7 ヶ月）
2. 週 1～2 回訪問、2 回/月の割合で 1 泊 2 日帰宅など対策を続けるも認知症進行。自分の身の回りのことが覚束なくなった。
3. 健康であったが、誤嚥性肺炎のリスクにより、ムース食となったが寝込むことはなかった。

[面会] 2020 年 3 月までは面会自由、一時帰宅もできた。以降コロナ渦で面会は施設玄関ドア越し、一時帰宅は中止。

[最期のお別れ]

1. 死亡当日、昼間施設側の計らいで、自分・妻・妹の 3 人で約 1 時間、ベッドの傍らで過ごせた。本人は口では喋らなかったが、分かっていたと思う。
2. 夜急な連絡で駆けつけた。息を引き取ったところであった。
   娘が賛美歌など唄う。

[対応、お気持ち]

1. 自分が（施設対応の）ボランティアで施設を良く知っていることも幸いしたのか施設には良くケアをして頂けた。
2. 立場上やむを得ないかも知れないが、食事のムース食化や一時帰宅中止など、もう少し自由にしてもらいたかった。（コロナ対策の制限もあったが）
3. 「延命化の是非」を求められて辛かった。もう少し流動的な采配が出来ないか。

（２６）2021 年 2 月、妻、55 歳、緩和病棟（男性、50 代）

[経過] 2020/12/29 国立病院すいガン余命宣告(1 ヶ月)即入院。1/4 バイパス手術。1/21 肝臓、肺にも転移、治療あきらめる。1/29 緩和病棟へ転院。1/29～1/31　VIP 用部屋利用。2/1 小さい部屋へ変更。2/2～2/7 会話出来る状態（麻酔・飲むタイプ）。2/6 常時麻酔機器に投入、眠っている時間長くなってきた。2/9～息荒く終日苦しそう　2/10　18 時逝去。

[面会] 面会できた。制約：①時間帯　②面会者は入院翌日までに 3 人までの事前登録必要　③病室には 1 人しか入れない　④面会用の部屋の場合は、患者含め 3 人までＯＫ。

麻薬を使いながら、最後の食事となる食事介助や散髪など、私にも母の最後になるであろうお世話をさせていただきながら過ごしました。
[面会] 緩和ケア病棟では、面会許可は固定２名、１週間３日でした。ただし、終末期を迎える場合、その２名の面会制限はなし。その間に会わせてあげたい孫２名のみ特別として１日だけ１時間の面会許可。
[最期のお別れ] 固定２名で毎日付きそうのは体力的にも大変でしたし、弟はコロナの影響で仕事のスケジュールがくずれてましたので、あまり付きそえず、体力的にも限界でした。私も仕事を休んでましたので、大変だったと思います。コロナでなく、制限もなければもっとたくさん会いたい人はいました。もっと痛い所をさすってあげたりしてあげられました。家族も本当にコロナを恨んでいます。
[対応、お気持ち] 病棟では本当に良くしてもらいました。特にナースの方々･･･。緩和ケアという少し特殊な場所でもあると思いますが、私達家族によりそってくれて感謝してます。ただコロナによる制限がなければ、もっとこの１年、悔いのない様にできたのではないかと、後悔しかないです。

【６】若干の考察
・2020 年２月あるいは３月に、病院・施設などでの面会の禁止・規制が始まっている。アンケート回答（14）以降がコロナ禍である。
・最期のお別れができたか、あるいは間に合ったか、ということだけに注目すれば、コロナ禍以前は 10/13、コロナ禍以降は 9/17（在宅１含む）である。在宅でも、数分の違いで「もう冷たくなっており」（15）という場合がある。
・面会規制は、時間、人数、頻度、対面不可など非常に厳しい。そのようなもとでは、家族や病院・施設の医療者・スタッフが最大限の努力をしても、最期のお別れには困難・障碍が伴う。最期のお別れには、そこに至る経過とゆったりとした時間が必要である。個々の事情はあるにしても、後悔の少ないお別れとはどのようなものなのか、について考えさせられる。
・遺された方のお気持ちの問題だけでなく、一人さみしく逝かなければならないご本人のお気持ちへの配慮が必要ではないだろうか。今コロナ禍のもとで、何が出来るか？ マザー・テレサを思い起こす。ご本人の激しい痛みや呼吸苦を和らげて（医療的行為）、安らかな最期を迎えられるようにすることは必須であるが、ご家族に囲まれてあるいはご家族が間に合わない場合でも、医療者・スタッフが見守る中で旅立たれることを願ってやまない。最後に再度、ご協力に心より感謝申し上げます。
追記：柳田邦男氏は、『朝日新聞』（2020/12/3）のオピニオン＆フォーラム「いま『死』とは」のインタビュー記事で「コロナ患者の最期 さよなら言えずに 家族に残る喪失感」という見出しの下、「あいまいな喪失」ということに触れたうえで、脳死状態のご子息と 11 日間「２人で無言の会話をしていました」という体験を語っている。カミュ『ペスト』には、血清を試みた少年の「病の一進一退を刻一刻と見守っていた」迫真の描写がある。「少年の脈をとってみていたが、･･･その死刑に処されている少年と自分とが一つに溶け合ってしまい、まだ健全な自分のあらゆる力をもって少年をささえてやろうと試みるのであった。しかし･･･」、と。

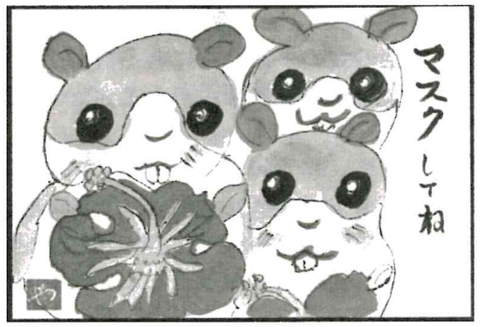
こんな近況です～総会資料（議案）への返信～

例年、５月のつどいの最初に青空の会の総会を行っていましたが、つどいを中止にしたため総会を昨年に続いて開くことができませんでした。そこで総会資料（議案）を会員に送付し、返信はがきで、賛否とともに近況を書いていただきました。

★いつもお世話になっています。青空の会って本当にしっかりしているなぁといつも感謝、感激しております。その組織力、行動力ハンパナイ。私はといえば蟄居生活ですっかり疲労困憊しております。で、暇なものですからせっせとワクチン接種の電話をかけつづけ、ついにダウンしてしまいました。スマホのワンタッチダイヤルを押しつづけたのですが、５月 10 日は 15 分で終了。５月 17 日は昼２時頃つながったのですが、すでに７月 18 日の大和田がいちばん早いものといわれ、５月 24 日は朝９時から夕方６時まで、ひたすら押しつづけても１度もつながらず･･･、25 日も･･･、で、すっかりノイローゼ気味です。（林ひろみ、東京都）

★中野様、JSA, 青空の会どちらも精力的に御活躍の様子、敬服しております。「新しい風」も毎号拝読しております。当方、新版資本論を読む会や日本国憲法と自民草案の対比読み合せなど始めています。（三浦克洋　つくば市）

★我が家は山を切り開き建てられた集合住宅です。道路一つ隔てた低い裏山で色々な鳥たちの美声が聞こえます。チョットコイ、チョットコイと、人間よりもはっきりと、ゆっくりと、心をこめて、――でもお相手はきません。まあ、お気の毒に。お相手もきっとこんなに地球を汚してしまった人間の傍なんて嫌だワ、と敬遠したのかも知れませんね。（Ｓ．Ｉ　日野市）



★大変お世話になりまして、ありがとうございます。２月の「つどい」は２年振りに参加させていただき、久しぶりに気持ちがやすらぎました。８月にはコロナ感染の不安も少しは薄らいでいることを期待し、また皆さまにお会いしたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。（Ｈ．Ｒ　東京都）

★梅雨空の下、紫陽花があちこちで待っていてくれて私たちの目、心を楽しませてくれています。長い宣言下、出かけられず、気持ちも萎えてしまいそうになりますが、地元の友人とウォーキング、サイクリングを楽しみました。こもりっきりでうつ状態になるより周りに迷惑をかけないよう気をつけながら、日常のささやかな喜びを見つけられると、それはとても幸せなことだと改めて感じました。ワクチン接種も迷いましたが、思い切って接種予約は大変な思いでしたが、６月中には２回目を終える予定です。（Ｓ．Ｙ　東京都）

青空の会のつどい

（２０２１年８月のつどいを開催します）

Ｎｏ．１１０

目　　次

活動経過		1
最期のお別れについてのアンケート（報告）	中野 貞彦	2
こんな近況です～総会資料（議案）への返信～		18
かずこのエッセイ－１７　よくしゃべる私です!!	椚　計子	24
四季雑感（18）お風呂の中で思うこと	樫村 慶一	25
絵手紙コーナー		26,30
北陸便り（51）～善人の沈黙～	池田 功夫	29
6月の「北陸グループのどい」について		30
こころのひろば		31
第109回青空の会のつどい案内		43